夢は叶えるもの

IMAMURA AYAKO 特別編

2014.4 Scene 15

架け橋　きこえなかった3.11

「架け橋」とは

津波警報が聞こえなかった

東日本大震災の時、警報が聞こえず、津波にのまれて亡くなった耳の聞こえないろう者や難聴者もいました。警報が聞こえていたら、助かっていたかもしれない命。「命に関わる情報に格差があってはならない」そのことを伝えたい一心で、東日本大震災の11日後に宮城を訪れ、被災したろう者や彼らの支援に駆け回る宮城県聴覚障害者協会を取材しました。そして、「架け橋」シリーズを第4弾まで制作しました。2013年8月に完成した「架け橋 きこえなかった3.11」は、その4作品と2013年に新たに取材した映像を再編集した集大成です。

2013年の夏の終わり、1通のメールが届きました。差出人は、気象庁の地震津波防災対策室の荒谷さんです。そのメールの一部をご紹介します。

> 新宿で「架け橋　きこえなかった3.11」を拝見させていただきました。映画を拝見し、本当に感銘を受けました。涙がこぼれました。
>
> 「津波警報が聞えなかった」、「命と安全に関わる情報に格差があってはならない」という言葉は、防災情報に携わる人間として、本当に何とかしなければならない問題だと思いました。
>
> また、緊急地震速報をご存知でしょうか？震度5弱以上の大きな揺れが来る数秒から数十秒前に音声でみなさんにお知らせする情報です。この緊急地震速報も音による情報となっており、現状では耳が聞えないみなさんにとっては役に立たない情報であるように思えます。何とかできないか考えているところです。

メールを読んでうれしい気持ちになり、返事を書き始めたら、熱いものが胸の奥からこみ上げて、涙となり、あふれてきました。津波の警報が聞こえなかったことを、一番伝えたかった人に伝えることができ、さらに、何とかしたいと思ってもらえたことがとてもうれしくて……。

思いを伝えたい！

この映画の取材中、被災して傷ついている方々にカメラを向けることは、精神的にも辛く、私のしていることは正しいのだろうかと何度も自問自答しました。取材しては編集し、全国各地で上映して伝えていきましたが、それでも、私の中ではしこりが残っていました。取材することで辛いことを思い出させてしまって申し訳ないという気持ちや取材の準備不足による自分の至らなさ、もどかしさなど、いろいろな感情を抱いていました。宮城の人たちの時間と労力をいただいて取材させてもらったのに、私は彼らの思いを十分に伝えることができているのか……。そんな自分と向き合うのが辛くて、被災地の取材にピリオドを打とうと思った時期もありました。そんな時、新宿のある映画館から、私の過去の作品を上映したいと申し出をもらいました。私の映画の配給をしている鎌田英嗣さんが、その映画館の支配人に作品を渡したのだそうです。2013年の1月のことです。

うれしい気持ちもありましたが、上映するという話には消極的でした。自分が納得していない作品を一般の人々は見ないだろうと。また、震災から2年以上たった今、上映して、見に来てもらえるのだろうかと不安もありました。

しかし、鎌田さんから届いた「当事者の目線で作られた大震災の映画はほとんどなく、とても大事なことだ。多くの人に見てもらいたい」という熱いメールに心を揺さぶられました。鎌田さんが一生懸命なのに私が頑張らなくてどうする!と思い、今まで私が編集した作品を見直しました。使命感に燃えて感情的になっている部分もあり、2年以上たった現在にはそぐわないと感じ、再編集することにしました。その作業は、十分に伝えることができなかった自分と向き合う作業でもあり、辛いところもありました。それでも、毎日映像を見ていると、だんだん物語が浮かび上がってきて、無我夢中でつなげていきました。津波の警報が聞こえないという問題だけではなく、今も仮設住宅で生活している聞こえない人たちのこと、支援活動で走り回っている聞こえない人たちのドラマも伝えたいと映像をつなげました。

カメラを向けることさえ申し訳なく、まして三脚を据えて撮ることはできないと手持ちのカメラで撮影したため、手振れも多く、いい映像がないと落ち込みましたが、制作に120％の情熱を注ぎ、少しでも人の心に伝わる作品にしようという思いで仕上げました。

そして、新宿での上映が無事に終わり、しばらく経ったある日、荒谷さんからのメールが届いたのです。それを読んで初めて、「架け橋 きこえなかった3.11」を完成させることができてよかったと心から思いました。支援する人たちや被災した聞こえない人たち、津波警報が聞こえず亡くなった方々に対して、「やっと皆さんの祈りを、思いを伝えることができました」と心の中で報告しました。

その後、9月の初めに気象庁を訪問しました。荒谷さんはメールと同じようにとても熱く行動力のある方で「一緒にできることからしていきましょう」と力強い言葉をいただき、とても感激しました。

私は20代の時、映画で社会を変える！ と使命感に燃えていました。しかし、映画だけで社会を変えることはできません。本当に社会を変えることができるのは人です。荒谷さんと話して、そう思いました。私はこれからも人の心に届く映画をこれからも撮っていきたい。全国の人たちに東北の人たちの体験と想いを届けたい。「架け橋」はこれからです。この映画が私からあなたへと架ける橋となればうれしいです。

イタリア・ローマ編

去年の11月にローマで開かれたCINEDEAF（ろう映画祭）で「架け橋　きこえなかった3.11」は招待作品として上映されました。300人以上が視聴し、「とても感動した」「被災地には聞こえない人もいたことに気づかなかった。考えさせられた」と好評でした。

英語字幕（上）とイタリア語字幕（下）付きで上映されました

右から2番目が筆者

PROFILE

今村（いまむら）　彩子（あやこ）

映像作家
Studio AYA 代表
名古屋出身・B型・朝型人間

体を動かすことが好きで、週に2〜3回、大高緑地公園で5キロ走っている。小学生の時は3度の食事よりも本が大好きで、今も外出する時は必ず本を持っていく。

ツイッターやブログで日々のことをつづっています。
http://studioaya.com/

※ご意見ご感想をお待ちしております。ボラみみより情報局まで。